

会 議 録

会議の名称	第４回小金井市保健福祉総合計画策定委員会
事 務 局	地域福祉課
開 催 日 時	平成２３年７月２７日（水）午後７時から午後８時５０分まで
開 催 場 所	小金井市役所 ８０１会議室
出 席 者	（委員） 山口委員長、竹内副委員長、伊藤委員、高氏委員、中里委員、平野委員、井爪委員、齋藤委員、森田委員、矢野委員、鈴木委員、木所委員 （事務局） 福祉保健部長、地域福祉課長、障害福祉課長、介護福祉課長、介護福祉課長補佐、健康課長、作業部会職員、コンサルタント会社研究員
欠 席 者	０人
傍聴の可否	<u>可</u> ・ 一部不可 ・ 不可
傍 聴 者 数	１人
傍聴不可等の理由等	
会 議 次 第	１ 会議開始にあたって ① 配布資料について ② 第３回策定委員会会議録について ２ アンケート結果報告 ３ 各専門部会からの報告 ４ 作業部会からの報告 ５ 次回の日程について
提 出 資 料	１ 小金井市保健福祉総合計画（地域福祉計画）の策定に伴うアンケート調査結果まとめ（事前配布） …資料（１） ２ 小金井市保健福祉総合計画（地域福祉計画）の策定に伴うアンケート調査結果（事前配布） …資料（２） ３ 第３回策定委員会会議録 …資料（３） ４ 保健福祉総合計画アンケート回収率一覧 …資料（４） ５ 小金井市地域福祉計画進捗状況調査結果 …資料（５）
そ の 他	

会 議 結 果

山口委員長 事務局 事務局 事務局	1. 会議開始にあたって — 山口委員長挨拶 — — 地域福祉課長退職の報告 — ① 配布資料の確認 ② 第3回策定委員会会議録について（資料3）
山口委員長	内容について修正等があれば、お願いしたい。
山口委員長	— 特になし — では、承認とさせていただきます。
事務局 コンサルタント	2. アンケート結果報告 保健福祉総合計画アンケート回収率一覧（資料4）の説明 小金井市保健福祉総合計画（地域福祉計画）の策定に伴うアンケート調査結果まとめ（資料1）（資料2）に基づき、前回より追加箇所の説明
山口委員長 木所委員	ご意見ご質問があれば、挙手をお願いしたい。 全体として、協力したい、やりたいという方が非常に多く、その反面、情報の入手が分からないとある。この辺は行政の問題だと思うが、下にどうおろしていくか検討することが非常に重要である。 また、町内会によって活動状況にばらつきがあるが、災害時の対応等は3月の大災害の後なので、今がまとめていくチャンスと思うので、その辺を重点的にやっていってもいいのではないかと思った。
井爪委員	ボランティア活動等に5割近い方が参加したいという結果だが、アンケートに協力される方はボランティア意識が高い方が多く、この結果が100%市内全体を反映していると思えないが、こういう傾向の方がかなりいることを念頭に、私たちは市民を福祉活動に取り入れていく仕組みづくりを考えていかなければいけないと感じた。
中里委員	災害弱者への周知はプライバシーとの関連がありとても難しく、距離感の取り方も、一定のスタンダードが必要ではないかと感じた。
平野委員	34ページの「災害時要援護者登録名簿」の市役所の所管はどこか。現状、どなたまで知っているのか。
地域福祉課長	所管は地域福祉課である。名簿については、個人情報等の問題があるため、庁内の個人情報審議会を経て、民生委員、庁内、消防署まで

平野委員	に提供をしている。その後は、要援護者の対象者の同意を得て、今後は町会・自治会の協力のもと、段階的に支援体制を構築していく予定で現在進めている。 地震が起きて町内会で助ける場合、誰も分からないので、指示がないと動けないのが現状である。以前、車庫証明の件で警察の方が台帳を持って来られて、家族構成をチェックした記憶があるが、警察はそれをまだ持たれているのだろうか。
地域福祉課長	警察がどのようにして、その情報を入手されたかは分からない。 自治会長、町会長さんが情報を持たれて、支援体制ができていいる所もあるかと思うが、大部分はできていないと思うので、今後、要援護者支援体制のシステムの中で検討していきたいと思っている。
平野委員	80ページの自由回答、下から2番目に「賃貸マンションの場合、町内会があることすら知らない」とあるが、町内会・自治会の所管課はどこになるのか。
地域福祉課長	所管は広報秘書課である。市内には、町会・自治会がない所もあるとは聞いている。
高氏委員	今回の災害を受けて、町会を知ってもらうことなど含めて作られたと思うが、前原町4丁目では町会長が、役員の紹介や前原町の出来事等記載した「前原町4丁目だより」を創刊された。ただ、町会の役員は、20年、30年と長くされている方が多く、ボランティアでずっとしてくださるのはとてもうれしいが、それでは外に広がらない。持ち回りの班長はいても、町会費を集めて、参加を呼び掛けられた行事に出ていくだけなので、若い方を育てるという、横のつながりをどこかでつくっていかないと、いつまでたってもこの形は変わらない。 ボランティアをしたいと言われる方も多いので、今後、その辺で町内会の在り方の解決策が見いだせないかと思う。
平野委員	港区の広報に「町会・自治会に加入しましょう」というPRが載っているが、小金井市では見たことがない。まず、加入を促してから、町内会の活性化を図るとするのが大事と思う。こういう時期なので、広報を使って、所管課等も記載してPRしていただければと思う。
中里委員	マンションの場合、町内会に入っていないことが多いようだが、マンション内の管理組合単位で町内会に入っていないのだろうか。今、マンションが連立しているが、抜けている方が多いということか。
竹内副委員長	簡単に町会・自治会と市の関係の経過は、かつて、町会・自治会は市役所の下請けみたいな形で庁内の配布物など、ばらばらにどんどん送られてきていたため、負のイメージを持たれた方もいた。町会・自

伊藤委員 井爪委員	治会と行政は、車の両輪であるという考え方で、昭和50年頃の市長と町会長会議で話し合い、回覧文等は月末何日までといった形で、各課が協力し広報が回覧用の市政だよりを作る等、一定の整理をしたという経緯があり、警察も消防もそういう形で協力している。現在も年2回の町会長・自治会長会議には、市役所、警察、消防も出席し協議を行っており、その当時と同じ形でずっと来ているが、今は高齢化が進み、地域の絆が特に求められている時代なので、行政もそのあたりを見直すというリーダーシップを取ったほうがいいと思う。 今、「しあわせプラン」という10年間の市の長期計画ができて、市民協働ということが打ち出されているので、この会議でもそういうところをもっと求めていく声を挙げていくことも必要。 町会の組織率は、10年前くらいは50%だったが、今は45%を切っている。マンションについては、マンション内の管理組合で一つの町会のような機能をもった所もある。今、防災については非常に関心が高いので、そのテーマですと、比較的地域の方が集まりやすい。 昔からの町内会組織がずっと続いているのは大切なことだが、やはり時代に合わせて、新しい角度から見ること必要だと思う。 団地の自治会、マンションの管理組合が、別にその地区の町内会に入るのは情報の伝達などいろいろな面でも大変なので、それよりも、それぞれが一つの町内会として、市と連携したほうが機能的だと思っており、そうなっていると理解していた。町内会の在り方については、個々が勉強しなくてはいけない問題ではないかと思っている。 民生委員の立場から、民生委員90周年記念の時「災害時一人も見逃さない運動」を始め、この「災害時要援護者名簿」づくりはその運動の一つである。平成21年に、市報に登録希望者の募集をかけ、また「高齢者地域福祉ネットワーク」に入っている方の所を、民生委員が回って登録をお薦めしたり、市役所の協力で障害をお持ちの方と要介護3以上の方の名簿をいただき、それらを基にして作っている。 実際、災害時は隣近所しか頼りにならないと思うので、個人情報等も含め、その辺を考えながら計画を立てなければ、絵にかいた餅になると、私ども民生委員も感じているが、この名簿は災害が起こったとき情報を出すというお約束で受けており、事前にこの情報を町会の方にお出しすることはできないという縛りがある。 アンケートでも、個人情報に関して、あまりにもこだわりすぎるのではないかという意見も多く見られるようなので、市全体の話だとは思いますが、皆さんで、その辺を考えていただきたいと思います。
-------------------------	---

竹内副委員長	先進的な地域の事例では、いざ災害が起きたとき、行政関係が地域まで乗り出してくるのに時間がかかるので、町会・自治会の役員まで名簿を渡して、町会・自治会で防災マップを作って一定の方が情報を把握し、いざというときには、すぐ対策に乗り出せるような地域もあると聞いているので、法的あるいは条件的にできないことではないと思う。
井爪委員	区内では作っている所があり、また切迫した問題である下町では、皆さんの意識が高まっていることもあると思うが、小金井市では、まだそこまではないと感じる。
竹内副委員長	民生委員まで広がったわけなので、もう一歩広げて町会・自治会の幹部の方にも情報が届けば、いざというときに役に立つと思う。
井爪委員	ただ、民生委員は地域の方の情報は常に把握しているので、民生委員が生きていればいいが、災害時は何が起こるか分からないので、個人で情報を持っていたとしても、なかなかそれは難しいと感じている。
平野委員	隣近所にいることはうすうす感じており、いざとなったら、我が身大事で小金井公園に逃げるのではないかと思う。隣に老人夫婦が寝込んでいると思うと、片方では気掛かりだし、片方では我が身大事でそうになってしまうのではないかと思う。
井爪委員	東町5丁目は、町会で独自に名簿を作り始めており、とても積極的な町会も出てきている。そういう形が町会ごとにできてくれば、違った広がり方がでてくると思う。
福祉保健部長	確かに災害が起きた時、市民の命が大事か、個人情報的大事かという問題がある。今回のように、福祉保健部4課の個人情報は、あくまでも各課における支給決定等の業務上の必要性に基づいて収集した個人情報であり、アンケート送付のために使用する場合は、「目的外利用」となるため、個人情報保護審議会に諮問する必要がある。 また、例として視覚障害のある方に対する選挙の投票用紙を点字で送付しようとした場合についても、所管する課が業務上収集した個人情報を本人の同意を得ずに提供することはできないため、同様に個人情報保護審議会に諮問することとなる。それだけ個人情報は非常に大事で、良かれと思ってしたこと、その方にとっては大事な個人情報で、理由なく本人の承諾を得ないで使うことができない。それが一つの縛りだと思う。 片や、災害の時は個人情報を越えた働きが必ず必要で、今、最終目標として、小金井市内で、1つあるいは2つモデル地区を作り、災害時援護を要する方に1人対して2人の支援者を作ろうと考えている。

鈴木委員	それには、援護される方がこの2人を探さないといけないが、近所付き合いが希薄のため見つからないという状況がある。町会・自治会の方々にご協力をいただかないと成立しないので、協力してくださる地区を見つけて市からお願いはするが、中には町会・自治会に入っていない方もいる。その方を実際の有事の時に助けてくださるかどうかということを、そこの町会・自治会の中できちんと話をさせていただいて、了解を得ないといけない。 また、支援の承諾をしてくれた場合、名簿を町会・自治会にお渡しする必要が出てくるが、助けていただきたいけれども、日ごろの生活を考えると個人情報を出したくないという方もいらっしゃるので、お一人お一人にきちんと同意を得て、同意が得られた方だけ名簿に登載して、それを町会・自治会の方にお渡しする。 構想としてはそこまでできているが、やはり個人情報の縛りだったり、町会・自治会に入っていない方をどのようにするかということがネックになっているので、まだうまく進まない現状である。 少し特化した言い方をすると、例えば、今回は要援護者の、一番最初の名簿の中には、精神障害の方々はまだ理解が進んでいないところがあるため、自分が精神障害ということを町会や近所の人に知られたくないという方も非常に多いので、精神障害のある方は入っていない。でも、やはり有事の時には助けてもらいたいという気持ちはあるので、どちらも一緒に検討する必要がある。福祉保健部のほうでは最終目標として、先ほど申し上げたモデル地区をまずは成功させて、それを検証した中で市に広めていくということを考えている。 アンケート結果報告を聞いて、私たちが感想をどこまで述べて、どういうふうにとままっていくのかが見えてこない。町内会・自治会、個人情報の大切さ、難しさも分かっている上で、策定にあたりアンケートをどう活かしていくのか。資料1の内容や若い世代の人たちの価値観、また、小金井に長年住んでもらい、高齢者も含めて協力しあってやっていかないとすると、先ほどの、町内会こととか、持ち家とか賃貸とかうんぬんではなくて若い世代の方々が、参加できるものであったり、地域に関わっているという実感が必要である。日中いない人たちも多い中で、夜間の災害時に備えることとか、若い人たちのご意見もすごく大切だと思うが、ここのメンバーには若い方がいないので、その辺はうまく持っていけないといけないと感じた。
斉藤委員	このアンケートをみても、30代、40代あたりで、画然といろいろ考え方が違う。町の中に常時いる方というのは40代～50代で、20代～30

平野委員	代で学校や仕事に行っていれば、昼間は地域と全然接点がないという方が多くいらっしゃると思う。そういう人に町内会に入れとか何とかいっても、多分、ぴんときないと思う。そういう方をどういうふうに取り込んでいくかということが、一番大事なような気がしてきた。 アンケートの自由回答は、どちらかというと読み応えがあり、参考意見が多く、自分なりに読みながら、次の3つのことを考えた。 1つは、町内会・自治会の在り方を考えるということで、まず、市報に掲載するということ。 2つ目は、ボランティアの在り方ということで、ポイント制・有償制のボランティアを、ぜひともやっていただきたい。先例として一番進んでいるのは稲城市で、ポイント制を行っている。 3つ目は、ある県で、お茶やお菓子が置いてあって、誰でも自由に出入りができるという場所をつくり、そこで子育てに悩んでいる方や高齢者の方たちがいろいろ話し合ったり、いろいろな情報が飛び交うことでうまく町が回っているとテレビで放映されていた。小金井市にも交流センター等いろいろな施設があり、実際使われているのかどうか分からないが、子どもから高齢者まで、気楽に集まれて、みんなで話し合える場所づくりをしていただきたい。
高氏委員	場所について、杉並区に32の「ゆうゆう館」というのがあって、60歳以上はいつでもそこに行けば、お茶も飲めるし、座敷やテレビ、本などいろいろあって自由に出入りできる。そこで、体操や絵を描くなどの自主グループのようなサークルが幾つもある。小金井には、年齢が高くなると、そういう行く場所や集まる場所がないように思う。 もう1つ、システムはよく分からないが、丸山台集会所ではお子さんがいらっしゃる方、どなたでもいらしてくださいということをされている方がいる。
伊藤委員	やり方によっては、いろいろな形が取れるのではないと思うが、場所がどういう形であるかが、一番小金井の問題ではないかと思う。 2年前、地域包括センターの介護予防事業の健康クラブに参加するととても良かったので、続けて参加している。週に1回2時間、1時間は軽体操をやって、後の1時間は頭の体操などで、参加者は特に70～80代の一人暮らしの方が多く、皆さん、健康で要介護未申請の方ばかりの集まりで、私も非常に楽しいし、2時間だとそんなに苦にならないのでいい集まりだと思っている。 地域包括支援センターがもう少し何らかの形で、あるいは市のほうでPRして、そういう機会を情宣だけでもしてほしい。個人情報に触

井爪委員	れない程度の付き合いを皆さんと、とても楽しくやっている。 児童館もそういう活動をやっており、誰でも、いつ行ってもいいということで、お母さん方、お子さんを連れて集まっていて、そこから自主グループが生まれている。お年寄りから若い方まで集まって話せるという場もできつつあるので、飛び込んでいかれるといいと思う。
矢野委員	総合福祉計画にアンケートをどう反映させていくかというところで、どういう議論に持っていったらいいのかを悩んでいる。 小金井市の特性では、地の人というか10年、20年以上という人たちの構成比率がかなり高く、そこへ、小金井に移り住んで5年～10年未満の人たちが3割くらいを占める比率かなと思う。自由記述では、行政やこういう会議に対して、期待していいのかというような辛らつな意見が随分あり、そこへ積極的にどう反映させたらいいのか、どこをポイントに考えたらいいのかというのが幾つかある。 1つは、年代で要求がはっきりしていて、それぞれのニーズのところで子育て世代にはどういう子育て支援を充実させるのか、高齢者の問題では、在宅福祉サービスの充実を求める声が多く多かったという気がする。その辺をこれからの行政の施策として、どこを重点に持っていくのかという議論をしないといけないと思う。 もう1つは、どこに相談にいったらいいかについて、相談の一本化というような、様々な問題をそこでワンアクション取れる場所をどこにどういう形で作っていったらいいのかというのがあると思う。 障害福祉分野で議論する中で、各地域の商店街の中に、NPOまたは市が補助金を出してもいいし、地域の人たち、自治会、障害者団体等、いろいろな人が運営に携わりながら、たまり場となるスポットができたという話が出ており、工夫すればやりようはあると思う。 ただ、それをどこが音頭を取って、どこが引き受けてやるかという問題や、地域の活性化等も含めて、そういう少し発想を変えた取り組みをしていかないといけないと思っている。まだ、福祉計画にどう反映していくかというところでは、提案にまでなりきれないので、考えていければと思っているところである。
木所委員	今のご意見に全く同感である。とにかく資料が膨大で、最終的にパブリックコメントに出すとなっているが、出せるのかどうか、非常に心配していることと、出た後にそれがどう変わったかということが一番重要なことで、行政のほうで、何らかの形できちっと出して、少なくとも2～3年くらいの間にどこがどう変わったかということを、委員や市民の方に知らせることは、非常に重要だと思う。

齊藤委員	あと、先ほど部長も話されていたが、町内会といっても、小金井市というこの狭い中でも非常にばらつきがあると思う。比較的協力できるような所でモデル地区みたいなことをやるのも1つの案と思う。 若い層という話では、やはり周りを見ても、地元の小中を出た人たちというのは割とつながりが深いので、その中で協力してくれるような若い世代の人が核になるとか、本当はこの委員会にも20代、30代の人が入っていてもいいと思うし、重要になってくると思う。 もう1つ全然違うところでは、3.11の災害時に関連して、中越地震の後に日赤の医療班として参加された先生の話で、とにかく、現場に指令塔がないと医者が行っても何にもできないというのが非常に印象的だった。また、開業医として何をしたらいいか聞くと、まず自分の身の安全、家族の安全、それから近隣、それが終わってできるのであれば、手伝ってくれと。特に東京みたいな所で災害が起きて、この辺であればすぐに救護班が来るから、とにかく自分の身の回りを固めてくれという話をされていたのを、非常に記憶している。 開業して10年、移り住んで1年なので、全く地元土地勘がないと言ってよく、家も商店街の端っこなので、商店街からの働きかけはあっても、町内会とか自治会、集まる場所というのは全く分からず、町内会からのアプローチもなく、どういう範囲なのかも分からない。練馬にいたころは、極小さな10軒くらいの町内会があり、比較的回覧板がいつも回って来て、町内会長さんがいろいろな情報はくれていた。 おそらく若い世代というのはそういう分からない人たちだろうと思われ、移り住んで10年程の人たちは少ないと言うけれど、実はもっと多くて、返事をくれない人たちが多分そこに入っているのだろうと思う。
山口委員長	モデル地区の成功と、まだまだ浸透していない所のボトムアップみたいな両方が大事かもしれない。
中里委員	私は40年住んでいるが、定年になって、今、初めて家におり、町内会は班長が回ってくるのでやっていたが、何も分からないのは同じで、身に迫ったことがないと知り得ないのではないかなと思う。 先ほどのキーステーションを設けるという話はとても賛成で、それをどこに設けるか。例えば、駅のそばとか、コンビニの中に場所を拝借するなど、そういう半官半民ではないが、行けば信頼できるボランティアなりの人が交代で常駐するなりしていて、信頼できる情報が常にあり、ここに行けばこのことは間に合うという交通整理がされている。これが浸透すると、地域に根差さない人でも、すごく心強いので

山口委員長	はないか。すぐに分からなくても、こうすれば分かるよということを教えてもらえるだけでも、いろいろな意味で小金井市はこういうことをやっているということに変わっていくのではないかと思った。 ほかにいかがか。これらの意見をどうまとめるかは大きな課題とは思いますが、いろいろご意見が出たということで事務局お願いしたい。
事務局	アンケート調査報告書をまとめる作業は、作業部会が中心となつて行う。アンケートをまとめるのが目的ではなく、今日、こうやって皆様からさまざまなご意見や課題をいただいたことがとても有意義だったと思う。これを素案の中に、明確化・目標化して、それをまた皆様にご提示して、ご議論いただくという形で進めたいと思う。 自由意見欄については、いろいろな意見があり、非常に興味深いですが、今回、アンケート結果を一つにまとめる際に、ページ数の問題や個人情報に関わる記述がないかなどを考慮しながら、作業部会でまとめていきたいと思う。 今後については、9月中旬には皆様への配布及び市報でご案内し、調査結果はホームページからダウンロードできる形にする予定である。
事務局	3. 各専門部会からの報告 各部会等の進捗状況を事務局担当課長より報告
事務局	4. 作業部会からの報告 作業部会の進捗状況を担当職員より報告
山口委員長	ご意見ご質問があれば、挙手をお願いしたい。
木所委員	資料5のように字が小さいと見にくいので、もう少し大きい字を使っていたきたい。
事務局	すみません。今回は、フォントを大きくするようにしたい。
竹内副委員長	資料5で、平成23年度は事業の主体が少し変わっていると思うので、介護福祉課と地域福祉課で、もう一度、精査していただきたい。
事務局	8月10日の作業部会の中で、再度確認・検証を行い、見直しをする予定である。
矢野委員	17年の地域福祉計画の中の「福祉圏の設定」で、地域での見守り活動のネットワーク化を図りますということで、学校区ごとの施設等の団体の一覧があるが、この辺でのネットワークの進捗状況はどこかで表現されるのか。

福祉保健部長	地域圏の関係については、計画には載っているが、中身も多少変わっており、この検証が終わっていないため、特に進捗状況はない。
矢野委員	資料5の中は抜粋という形だが、こぼれたものに対しては、どういう対応を考えているか。
事務局	子ども分野限定の施策等は省かせていただいているが、全庁には照会を行い検証している。
山口委員長	取りやめるようなものは、今のところないのか。
矢野委員	取りやめるというよりも、「小金井市しあわせプランの」との関係の中で、今度の施策の中ではどこを重点にするのか、もう少し議論できる資料を提示していただきたい。アンケート結果でも皆さん受け止め方はいろいろで、これをどう評価するかも含めて、どう反映させていくかというのはあると思う。表で出されたものも、一つ一つ吟味されていないわけだから、委員から若干疑問が出てきたりもすると思うが、その辺の議論の時間はきつくないと思う。ぜひ、その辺、市としてはどこを重点的に取り組みたいのかを出していただきたいと思う。
竹内副委員長	前回の計画が、その後どうなったかは大事で、前の計画の進行状況を確認めずそのままにして次に進むと心残りの部分が出ると思う。 これは、現状と課題、今後の方向性ということで、前計画を精査した結果、これが出てきたのだろうと思うので、次回、もう少し大きな字にさせていただいて、その辺を説明していただいたらいいかと思う。
高氏委員	今後の方向性のところに、アンケートが反映されていくわけか。
山口委員長	ある程度リンクした上で、今後の方向性が出てくることがあると思うし、重点をどこにするかということとも関係してくると思う。 次回、字を大きくしてもらい、アンケートを受け止めたところと、今回の議事録等を併せながら、ご検討いただきたい。
竹内副委員長	資料は、当日配付ではなく事前にいただければ、今日、終わったと思うので、ぜひ、配慮していただきたい。
	5. 次回日程について
事務局	次回は、9月20日火曜日 午後7時 市役所801会議室の予定
山口委員長	それでは、本日の会議はこれで終了する。